

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名：公益財団法人 新宿未来創造財団

1. 事業の概要

事業名称	「はじめてしゃべる日本語クラス」新宿区最初級者（ゼロビギナー）対象の日本語支援事業
事業の目的	新宿区は、在住外国人比率が12.4%（平成30年1月1日現在）と高く、国籍は133ヶ国に上る。また、流動的な外国人が多く行き交う特色を持っている。新宿区日本語教室ではボランティアによるグループ学習を実施しているが、最初級者が来ると、その支援に集中してしまうことで他の学習者への対応が希薄になったり、最初級者がグループ学習に付いていけなくなってしまうなど、最初級者への教え方や対応に苦慮している状況が見られる。このような状況を鑑み、最初級者対象の教室を開設し、学習しやすい環境を整えるとともに、最初級者が日本語を学ぶために必要な日本語教室運営のノウハウやボランティアのスキル、テキストを構築する。 また、新宿区内では公的な日本語教室やボランティアによる日本語教室が各地で開催されているが、日本語教室間の連携が希薄であり、支援方法についても把握できていない状況にある。外国人が日本語を学ぶきっかけづくりとして平成29年度に申請した「はじめてしゃべる日本語クラス」事業の基盤を盤石なものにするともに、新宿区全体の日本語教室間の連携を密にし、日本語教育事業の安定的な実施に繋げることを目的とする。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	日本人ボランティアがはじめて日本語に触れる外国人をいかに理解し、多くの負荷を与えないように支援をしていくかが課題である。実際、支援中に学習者がため息をつき、頭を抱えている場面に少なからず遭遇した。その結果、学習者が継続せずに途中でリタイアしてしまうという状況があった。外国人が日本語を話す第一歩を恐れずに踏み出せるような支援ができるボランティアの育成が必要である。また、新宿区内全体の日本語教室の現状把握ができていないため、学習者の包括的支援体制が未整備である。
これまで日本語教育が行われていない市区町村の状況	
事業内容の概要	最初級者を対象とした教室を平成29年度に引き続き実施した。学習者は、最初級者を専門に教えるボランティアからしゃべることを重点的に学び、日本語を話す基礎を身に付けることができた。最初級クラスを修了した学習者には新宿区内の既存の日本語教室を案内し、さらなる日本語習得を目指す流れを構築した。 教室実施を中心に据え、その運営にあたるボランティアの育成・研修、使用教材の編集を行い、最初級クラス運営のノウハウを構築した。併せて、日本語教室のボランティアに研修講座や養成講座、教室の見学会への参加を積極的に働きかけ、構築したノウハウを新宿区内の日本語教室へ発信した。 学習者の途中リタイアを防ぐために、学習者には毎回状況確認のためのカルテを書いてもらい、参加の意欲や習熟度、楽しく参加できているかを把握するようにした。それと同時に、ボランティア自身も学習者の様子をボランティア用カルテに記入し、学習者と支援者の感覚に齟齬がないかを確かめた。 「はじめてしゃべる日本語クラス」を新宿区の日本語教室において重要な役割を担うものと位置づけ、新宿区内全域の教室運営体制を確立した。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年2月（10か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 健人	関東学院大学准教授
2	足立 章子	明治大学兼任講師
3	ブパール・マン・シュレスタ	株式会社GMTインターナショナル常務取締役
4	内野 桂子	新宿区多文化共生推進課長
5	佐藤 陽一	新宿未来創造財団事務局次長
6	米田 雅朗	大久保図書館長
7	関口 明子	国際日本語普及協会理事長
8	岸田 心	新宿未来創造財団地域交流課長
9		
10		



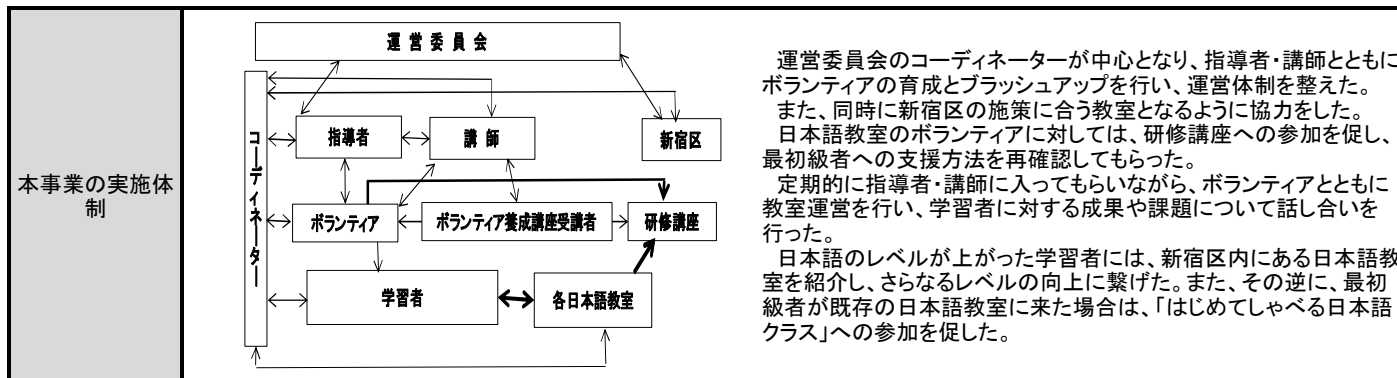
【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月31日(木) 19:00～21:00	2時間	新宿コズミックセンター	伊藤健人、足立章子、ブパール・マン・シュレスタ、内野桂子、佐藤陽一、米田雅朗、関口明子、岸田心	1. 運営委員会設置規約について 2. 「はじめてしゃべる日本語クラス」概要説明
2	平成30年10月25日(木) 19:00～21:00	2時間	新宿コズミックセンター	伊藤健人、足立章子、ブパール・マン・シュレスタ、内野桂子、佐藤陽一、米田雅朗、岸田心	「はじめてしゃべる日本語クラス」実施状況報告 (1)教室の運営方針について (2)人材の養成・研修の実施状況について (3)教室状況について (4)学習教材の作成について (5)新宿区地域日本語研究会について
3	平成31年2月21日(木) 19:00～21:00	2時間	新宿コズミックセンター	伊藤健人、足立章子、ブパール・マン・シュレスタ、内野桂子、佐藤陽一、米田雅朗、関口明子、岸田心	「はじめてしゃべる日本語クラス」実施状況報告 (1)人材の養成・研修の実施状況について (2)教室状況について (3)学習教材の作成について (4)新宿区地域日本語研究会について (5)全体総括について (6)今後の運営予定について

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	①新宿区地域振興部多文化共生推進課……既存の日本語教室の運営及び外国人支援の方針を検討 ②新宿区日本語教室、新宿日本語ネットワーク、区内ボランティアによる日本語教室 ……最初級教室修了後の学習者の受け入れ先として、継続した日本語支援を実施 ③国際日本語普及協会……研修・養成講座の講師及びテキスト作成実績を活用 ④外国人コミュニティ……新宿区に住みながら日頃から必要と感じていること等の意見を聴取
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制



3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称:「はじめての日本語クラス」プラザ朝教室運営】										
目的・目標	日本語運用能力がほとんどない日本語学習希望者に生活に必要な日本語を話すきっかけを与え、発話への恐怖心を取り払い、日本語学習の基礎を築かせる。									
内容の詳細	1. 教室の周知について 10か国語のパンフレット兼申込書でクラスの周知を行った。 2. 日本語のレベルチェックについて クラス参加前に独自の「日本語能力レベルチェックシート(会話方式)」を使用して日本語のレベルチェックを実施した。 3. 支援内容について (1)最初は、文字を一切使わず、音声のみで支援を始め、全20回の中で挨拶・名詞・動詞・形容詞という順で徐々にそれらを織り交ぜながら支援を進めた。 (2)文字は、クラス内では時間を取らず、希望者にはひらがな・カタカナの教材を渡し、自習を促した。ただし、文字に触れてもらうために板書等で表記した。 (3)日本語を発話するきっかけの教室でもあるため、座学だけではなく、教室外にも出向いて、実際に発話する機会を与えた。 4. やる気の継続について (1)学習者の参加意欲や習熟度、楽しく参加できているかについて、学習者カルテを使用して毎回確認を行った。 (2)学習者の参加意欲や習熟度、楽しく参加できているかについて、ボランティアには支援者カルテに毎回記入してもらった。 5. 教室運営について (1)ゼロレベルの中で0-1～0-4のグループに分けて実施した。 (2)全20回を5回ずつのタームとし、5回終了時にグループ編成の再検討を行い、新規学習者と途中参加学習者をパラレル方式で随時受け入れられるように、また足並みが揃うように運営した。									
実施期間	平成30年7月31日～平成30年12月11日				授業時間・コマ数		1回2時間 × 20回 = 40時間 ※朝・夜の合計は80時間			
対象者	最初級程度(ゼロビギナー) 日本語学習初学者				参加者		総数 38人 (受講者 28人, 指導者・支援者等 10人)			
カリキュラム案活用	教室運営20回分の支援方法を考える際に、ゼロ初級者並びに日本語学習初学者に対して、どの項目を使用するかを検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	7	6	0	0	2	1	1	0	3	0
	スリランカ(1人), ミャンマー(2人), 米国(1人), パキスタン(1人), カメルーン(1人), インド(1人), 台湾(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月31日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	自己紹介	日本での自己紹介の仕方を学習 自国の自己紹介も紹介してもらう		大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子・伊藤 健人・ 足立 章子	
2	平成30年8月7日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	物の名前 趣味	チラシや絵カードを使用して学習 途中趣味の話になり披露してもらう		辻、竹内、 原、平松、水 野、安	中山 智子・伊藤 健人	
3	平成30年8月14日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	食べ物 数字 料理・天気	Aグループ: チラシを見ながら、各種表示について学習 Bグループ: チラシを活用して数字の読み方を学習 Cグループ: 自国の料理について説明する。その後 天気用語について学習		大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野	中山 智子	
4	平成30年8月21日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	10	道を探ねる 体の部位・交通 買い物・食べ物	Aグループ: 道を探ねる会話練習を学習 Bグループ: 体の名称とその名称を使用した表現練習 交通機関の名称と時刻表の概念を学習 Cグループ: 買い物・食べ物について質問を受付ける 形式で学習		辻、竹内、 原、平松、水 野、安	中山 智子	
5	平成30年8月28日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	身体名称 道の尋ね方 天気・外食	Aグループ: 指の名称、身体名称とそれを使った表現 Bグループ: 左右の表現や信号の色について Cグループ: 雷雨の話から天気について学習 レストランの写真を使って表示を学習		辻、原、平 松、水野、安	中山 智子	
6	平成30年9月4日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	体の症状 天気・様々な挨拶 身体名称・症状	Aグループ: 「いたい・かゆい」などの表現を学習 Bグループ: 天気は台風や四季について 挨拶では日本特有の使い方 (すみませんには何種類もある等) Cグループ: 身体名称とそれを使った表現		大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子・伊藤 健人	
7	平成30年9月11日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	13	交通・非常時表現 家族 野菜・果物名称	Aグループ: 交通・非常時の表現、避難場所の確認 Bグループ: 相関図を作成して発表 Cグループ: 絵カードを使用して名称の学習		辻、竹内、 原、平松、水 野、安	中山 智子	
8	平成30年9月18日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	7	ふるさと 職業の名称 数字の数え方	Aグループ: 自国を紹介してもらう Bグループ: 職業名称(おまわりさん等)学習 Cグループ: 数え方(1本・2本など)学習		大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子	

9	平成30年9月25日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	8	位置名称 味覚表現 身体名称・食べ物名 称	Aグループ:左右真ん中の概念を含め学習 Bグループ:甘い・苦い・辛いなどを学習 Cグループ:身体名称・食べ物名称の復習	大川内、辻、 原、平松、水 野	中山 智子
10	平成30年10月2日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	7	日にち 形容詞と反対語 時計の読み方	Aグループ:カレンダーの見方や日にちの読み方 学習 Bグループ:「多い、あつい」とその反対語を学習 Cグループ:時計の読み方や数の数え方を学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
11	平成30年10月9日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	5	程度表現Ⅰ 形容詞 時間を使った表 現	Aグループ:「いつも・全然」など程度表現を学習 Bグループ:クロスワードパズルを使って形容詞 を 学習 Cグループ:「何時ですか?」などを学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
12	平成30年10月16日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	6	程度表現Ⅱ 1日の生活発表 生活語彙、家族名称、形容詞	Aグループ:「とても・少し」など程度表現を学習 Bグループ:形容詞・動詞・時間を使用して1日の生活 を説明する学習 Cグループ:生活単語と家族名称、長い・短いなどを 学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
13	平成30年10月23日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	5	1日の生活発表 動詞の反対語 日にち、値段の見 方、職業名称	Aグループ:質問形式で1日の生活を発表した 「何時に起きましたか?」など Bグループ:消すやつける等を学習 Cグループ:カレンダーの読み方、チラシを使用した 値段の見方を学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子・足立 章子
14	平成30年10月30日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	7	先週の出来事 形容詞の反対語 料理、名詞	Aグループ:先週の出来事を発表、その後形容 詞 の反対語について学習 Bグループ:調理器具の名称・料理の名称を学 習 Cグループ:乗り物・果物・野菜の名称を学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
15	平成30年11月6日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	6	ゴミだし 日本の行事 物の名称	Aグループ:可燃・粗大ゴミの名称、分別方法を 学習 Bグループ:お宮参り、雛祭り、七五三などを学 習 Cグループ:果物・料理の名称を学習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子・伊藤 健人
16	平成30年11月13日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	5	外出活動	花園神社で行われる酉の市を実際に見学。 聞こえてきた日本語、書かれている日本語 を母語等でメモしてもらい、最後に発表。	辻、竹内、 原、平松、水 野、安	中山 智子
17	平成30年11月20日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	3	あいさつ・単語練習 1日の生活 家族について	Aグループ:挨拶の練習と野菜などの名詞練習 Bグループ:起きてからのスケジュールを聞き、 朝ごはんについて説明してもらう Cグループ:家族や兄弟の人数を質問して説明 してもらう	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
18	平成30年11月27日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	3	日本の行事 各国の料理	Aグループ:日本の行事について学習 Bグループ:自分の料理について日本語で 説明	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
19	平成30年12月4日(火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	5	復習 旅行について 曜日の読み方	Aグループ:前回までの復習 Bグループ:フリートークで旅行について話 した Cグループ:曜日の読み方を復習	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子
20	平成30年12月11日 (火) 9:00～12:00	2	しんじゆく 多文化共生 ブラザ	5	復習	Aグループ:「交通・職場・シェアハウス」とテーマを 決め、質問形式で学習 Bグループ:ジャンルを問わず学習した言葉を復習 Cグループ:天気・挨拶について、学習者の言語での 言い方を教えてもらいながら学習した。	大川内、辻、 竹内、原、平 松、水野、安	中山 智子・足立 章子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年8月14日】

- ・全体ワークでは「伝言ゲーム」を行った。
- ・食べ物の学習では、チラシを見ながら各種表示(税込・税抜・半額・割引)について学習した。
- ・チラシを活用して数字の読み方を学習した。
- ・学習者それぞれの自国料理について説明してもらう。その後、天気用語について学習した。



○取組事例②

【第17回 平成30年11月20日】

- ・新宿区にある「花園神社」で開催されている「酉の市」へ出かけた。
- ・実際にお店の人と会話をしてみたり、神社へのお参りを体験してもらった。
- ・境内にある看板や案内板も見ながら、どういう意味かそれぞれ学習者の母語で良いのでメモを取ってもらい、理解してもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・既存の新宿区日本語教室と連携することができた。
- ・対話を中心とした学習を実施することができた。
- ・メモを取りたい学習者には、母語でのメモを促した。
- ・日本における習慣や生活情報なども紹介できた。
- ・アンケートにおいても「楽しかった」「交流ができた」という意見が多く、「居場所」としての教室運営ができた。

(3) 今後の改善点について

- ・全体ワークに参加しない学習者もいるため、どのように参加してもらうか工夫する必要がある。
- ・継続者が少ないので、もう少し継続者が増えるような活動をしていく必要がある。
- ・発音について拘る必要はないが、地域の日本語教室で出来る範囲の発音支援を考える必要がある。
- ・学習者それぞれのニーズに応えるために様々な形での支援方法を模索する必要がある。

日本語教育の実施【活動の名称：「はじめての日本語クラス」プラザ夜教室運営】										
目的・目標	日本語運用能力がほとんどない日本語学習希望者に生活に必要な日本語を話すきっかけを与え、発話への恐怖心を取り払い、日本語学習の基礎を築かせる。									
内容の詳細	1. 教室の周知について 10か国語のパンフレット兼申込書でクラスの周知を行った。 2. 日本語のレベルチェックについて クラス参加前に独自の「日本語能力レベルチェックシート(会話方式)」を使用して日本語のレベルチェックを実施した。 3. 支援内容について (1)最初は、文字を一切使わず、音声のみで支援を始め、全20回の中で挨拶・名詞・動詞・形容詞という順で徐々にそれらを織り交ぜながら支援を進めた。 (2)文字は、クラス内では時間を取らず、希望者にはひらがな・カタカナの教材を渡し、自習を促した。ただし、文字に触れてもらうために板書等で表記した。 (3)日本語を発話するきっかけの教室でもあるため、座学だけではなく、教室外にも出向いて、実際に発話する機会を与えた。 4. やる気の継続について (1)学習者の参加意欲や習熟度、楽しく参加できているかについて、学習者カルテを使用して毎回確認を行った。 (2)学習者の参加意欲や習熟度、楽しく参加できているかについて、ボランティアには支援者カルテに毎回記入してもらった。 5. 教室運営について (1)ゼロレベルの中で0-1～0-4のグループに分けて実施した。 (2)全20回を5回ずつのタームとし、5回終了時にグループ編成の再検討を行った。新規学習者と途中参加学習者をパラレル方式で随時受け入れられるように、また足並みが揃うように運営した。									
実施期間	平成30年7月31日～平成30年12月11日				授業時間・コマ数		1回2時間 × 20回 = 40時間 ※朝・夜の合計は80時間			
対象者	最初級程度(ゼロビギナー) 日本語学習初学者				参加者		総数 48人 (受講者 39人、指導者・支援者等 9人)			
カリキュラム案活用	教室運営20回分の支援方法を考える際に、ゼロ初級者ならびに日本語学習初学者に対して、どの項目を使用するかを検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用した。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	17	4	0	1	4	0	0	0	2	0
	バングラディッシュ(2人)、ナイジェリア(1人)、インド(3人)、アフガニスタン(1人)、モロッコ(1人)、イギリス(2人)、アメリカ(1人)									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月31日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	14	自己紹介	日本語での自己紹介の仕方を学習 自国の自己紹介も紹介してもらう		上田、狩俣 小林、西村 松岡	黄 麗嫻	
2	平成30年8月7日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	15	他己紹介	学習者が隣の人を他の人へ紹介する		上田、狩俣 西村、松岡	黄 麗嫻・伊藤 健人・足立 章子	
3	平成30年8月14日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	12	買い物 身体名称・色名称 位置名称	Aグループ: 買い物のロールプレイを学習 Bグループ: 体の部位、色名称、左・右などの位置名称を学習		上田、狩俣 小林、西村 松岡	黄 麗嫻	
4	平成30年8月21日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	12	食関連の学習 曜日・日付・買い物	Aグループ: あたかい・あまい・食べます など学習 Bグループ: 曜日・日付の学習 コンビニでのやり取りを学習		上田、狩俣 小林、西村 松岡	黄 麗嫻	
5	平成30年8月28日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	身体名称 場所の名称・階数 曜日・日付 道案内	Aグループ: 身体名称・触りますを組み合わせ て学習 Bグループ: 場所(トイレ)・1階を学習 曜日・日付も学習 組み合わせて道案内を学習		上田、狩俣 西村、松岡	黄 麗嫻	
6	平成30年9月4日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	5	名詞 位置名称	Aグループ: 電化製品、食器、日用品名の 学習 Bグループ: 上、下、前、後ろ、右、左を学習		上田、狩俣 西村、渡辺	黄 麗嫻	
7	平成30年9月11日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	13	復習 レストランロールプレ イ 道案内	Aグループ: これまでの復習 Bグループ: レストランでのやり取り学習 Cグループ: 道案内を学習		上田、狩俣 小林、西村 渡辺	黄 麗嫻	
8	平成30年9月18日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	日付・曜日 身体名称	Aグループ: 日付・曜日・時間帯の学習 Bグループ: 日付・曜日の学習 Cグループ: 身体名称+動詞(撫でます等)を 学習		上田、小林、 西村、松岡、 渡辺	黄 麗嫻・足立 章子	
9	平成30年9月25日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	8	店ロールプレイ 時間・時間帯の学習	Aグループ: 値段・物名詞を学習後、店での ロールプレイを実施 Bグループ: 「1時～24時間、午前中など」を 学習		上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻	

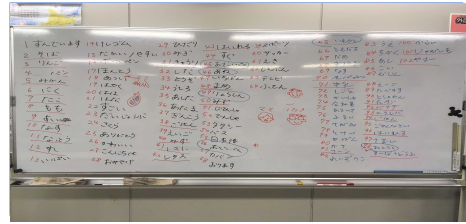
10	平成30年10月2日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	友人の紹介 季節・文化・習慣 フリートーク	Aグループ:「こちらは～です」など Bグループ:日本の季節・文化・習慣を学習 Cグループ:質問形式でフリートーク	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
11	平成30年10月9日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	日付 道案内 食べ物名称	Aグループ:カレンダーを使用した学習 Bグループ:イベントチラシを使用して道案内 Cグループ:カレーなど料理名を学習	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻・伊藤 健人
12	平成30年10月16日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	週末の行動 生活道具名称 人の呼び方	Aグループ:週末の行動を説明 Bグループ:料理道具や洗濯機などの名称 Cグループ:「先生」や「妻」などの名称	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
13	平成30年10月23日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	季節と形容詞 自国紹介 好き・嫌い	Aグループ:「夏は暑い」など学習 Bグループ:自国を他の学習者に紹介する Cグループ:食べ物の「好き・嫌い」を学習	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
14	平成30年10月30日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	12	頻度を表す表現 日にちの呼び方 10種の色学習	Aグループ:「だんだん、たまに」など学習 Bグループ:「昨日、一昨日」など学習 Cグループ:色名称を学習	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
15	平成30年11月6日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	11	数字の数え方 緊急通報用電話 生活動詞	Aグループ:「一・十・百・千・万」など呼び方 Bグループ:110番・119番など Cグループ:「起きます」など	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
16	平成30年11月13日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	14	物単位 病気の言い方	Aグループ:「__つ、__人」などの言い方 Bグループ:痛い・痒いなどの表現 Cグループ:「__つ、__人」などの言い方	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
17	平成30年11月20日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	12	場所と方向 形容詞の反対語 復習	Aグループ:右・左・前・後+新宿の地名 Bグループ:厚い・薄い、浅い・深いなど Cグループ:これまでの復習	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
18	平成30年11月27日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	10	存在の言い方 語彙 季節の言い方 と関連語彙	Aグループ:「います、あります」の使い方 Bグループ:特に語彙の発音 Cグループ:春夏秋冬・暑い・寒い	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻・足立 章子
19	平成30年12月4日(火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	10	対話練習	Aグループ:来日年数を含む自己紹介の仕方 Bグループ:趣味の答え方 Cグループ:趣味の答え方	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻
20	平成30年12月11日 (火) 18:00～21:00	2	しんじゆく 多文化共生 プラザ	9	対話練習	Aグループ:自己紹介の仕方 Bグループ:復習を兼ねた対話練習 Cグループ:質問の仕方	上田、狩俣 小林、西村 松岡、渡辺	黄 麗嫻・伊藤 健人

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年8月14日】

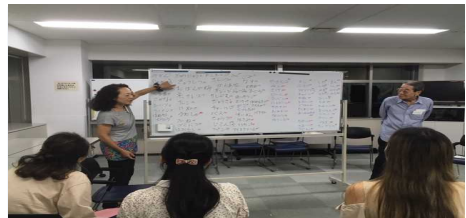
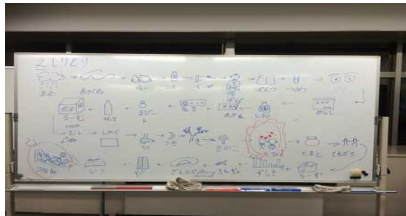
- ・全体ワークでは「知っている単語ゲーム」を行った。
- ・2チームに分かれて、知っている単語を発話してもらい、多く単語が出たチームが勝ちというルールで実施した。
- ・お互いに知っている単語と知らない単語を教えあうこともできた。
- ・グループ学習では全体ワークで出た言葉を元に名詞を復習した。



○取組事例②

【第16回 平成30年11月13日】

- ・全体ワークとして「絵しりとり」を実施した。
- ・グループ学習では知っている単語を言ってもらった。それを元にひとつひとつ発音と意味を確認していった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・教室実施時間の最初に全体ワークでゲームを実施したことによって、仕事などで遅刻する学習者が入りやすい雰囲気になった。
- ・既存の新宿区日本語教室と連携することができた。
- ・対話を中心とした学習を実施することができた。
- ・メモを取りたい学習者には、母語でのメモを促した。
- ・日本における習慣や生活情報なども紹介できた。
- ・アンケートにおいても「楽しかった」「交流ができた」という意見が多く、「居場所」としての教室運営ができた。

(3) 今後の改善点について

- ・発音について拘る必要はないが、地域の日本語教室で出来る範囲の発音支援を考える必要がある。
- ・学習者それぞれのニーズに応えるために様々な形での支援方法を模索する必要がある。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施【活動の名称:「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 事前研修】										
目的・目標	「はじめてしゃべる日本語クラス」を運営するボランティアに対し、クラス開始前に、日本語学習最初級者に対する教授法や教材作成方法を習得してもらう。									
内容の詳細	ゼロビギナーに対する日本語支援の方法 (1)教室運営方法について、シラバスについて (2)ゼロビギナーの特徴について (3)教室運営実演ワーク①(2人1組での支援) (4)教室運営実演ワーク②(レベルチェック、学習者・支援者カルテ記入方法) (5)教室運営実演ワーク③(ゼロビギナー向けの教材作成) ほか									
実施期間	平成30年6月21日～平成30年7月26日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 6回 = 12 時間 ※「養成講座」、「ブラッシュアップ研修」を併せ 総時間30時間以上実施			
対象者	平成30年度教室運営希望者(当地区・新宿区日本語ボランティア養成講座)または「はじめてしゃべる日本語クラスボランティア養成講座」を修了している方、その他、地域日本語教室の運営に携わった経験のある方				参加者		総数 18 人 (受講者 12 人, 指導者・支援者等 6 人)			
カリキュラム案活用	・教室運営20回で取り上げる活動を考える際に、ゼロ初級者に対しどの項目を優先すべきか検討するために「生活上の行為の事例」の一覧を活用。									
使用した教材・リソース	『生活上の行為の事例』、H29年度作成教材、『にほんごえてん』、生教材(スーパーのチラシ、新宿区地図、東京メトロパンフレット、ゴミ出しルール、防災ハンドブック等)、写真(街の様子を撮影したもの)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
										18
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月21日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	12	クラス概要、日本語ゼロ初級者への支援	ゼロ初級者の特徴と支援の流れ、クラス概要・運営規約説明		伊藤 健人	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
2	平成30年6月28日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	11	異文化コミュニケーションゲーム、教室活動のブレインストーミング	異文化理解能力・コミュニケーション能力向上、クラスで扱うトピックのブレインストーミング		足立 章子	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
3	平成30年7月5日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	10	学習者への質問の重要性	疑問詞の重要性、疑問詞と結びつく語彙、市販教材の分析		伊藤 健人	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
4	平成30年7月12日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	9	教材について考える	トピックに基づいた素材の使い方、支援の進め方		足立 章子	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
5	平成30年7月19日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	10	教材について考える	トピックに基づいた語彙出し、ノートの活用方法		足立 章子	赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
6	平成30年7月26日(木) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	12	クラス運営方法	クラス運営方法説明、担当割・学習者情報の共有		足立 章子	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 H30年6月28日】異文化コミュニケーションゲーム

事前研修参加者が2組(火星・金星)に分かれ、それぞれのルールに基づいてゲームを進める。それぞれのグループの参加者は、別のグループの行動を体験し、ルールを理解するように努める。その際、言葉は一切使用しない。ゲームを通じ、以下のことを理解する。

- ・人は持っている知識と経験によって生活している。
- ・一つの生活圏ではある意味を持つ動作が、別の生活圏では異なる意味を持つ場合がある。
- ・異なる生活圏に来た人は、とりあえず見よう見まねでやっている。
- ・ボランティア側は、すべて観察されて真似されると思っておく。



○取組事例②

【第4回 H30年7月12日】教材について考える

・第2回で検討した教室活動で取り上げるトピックに対し、必要となる語彙と必要な写真・生教材を考える。事前研修で検討したトピックは、自己紹介・買い物・交通・ゴミ出し等21項目である。

・語彙は、ゼロ初級者に必要と考えられるものとし、単語を中心とした。また、写真・生教材は普段の生活で収集し、語彙と組み合わせた。語彙と写真・生教材がそろったトピックについて模擬を行い、講師から助言を得た。



(2) 目標の達成状況・成果

・教室運営に対する事務局、講師、講座受講生(ボランティア)間の考えは、研修の中で統一していくことができた。

・講座終了時にアンケートを実施し、受講生12人の内、10人から回答を得た。9割が日本語教育への理解を深めた一方、内容や回数は改善の余地がある。改善点については、(3)のとおりである。

(3) 今後の改善点について

・内容を見直す。講師によるゼロ初級の特徴等の講義を縮小し、教室活動の内容を受講生(教室ボランティア)と検討するような内容に変更する。検討を通じ、教室運営参画への意識を付けてもらうことを主眼にしたい。

・内容は、教室内で行う全体ワークと一緒に考える、グループワークのトピックを考える、既存ボランティアと新規ボランティアの意識を摺り合わせる、教室運営と関連させた教材の作成方を習得するなどである。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア養成講座】

目的・目標	来年度の「はじめてしゃべる日本語クラス」開催に向け、クラスを運営するボランティアを養成するため、日本語学習最初級者に対する教授法を習得させる。									
内容の詳細	全12回中、前半10回は公益社団法人国際日本語普及協会から講師を招き、次の1～4について講義を行った。 1. 日本語ボランティアの心構えについて 2. 外国語学習体験について 3. 日本語の音と文字について 4. 名詞、動詞、形容詞について その後、後半2回を使って、当財団から平成30年度クラスの状況説明と既存ボランティアとの顔合わせ等を行った。									
実施期間	平成30年12月5日～平成31年3月13日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 12回 = 24 時間 ※「事前研修」、「ブラッシュアップ研修」を併せ 総時間30時間以上実施			
対象者	新宿区及び近隣特別区居住者（公募により受講決定）				参加者		総数 36 人 （受講者 27 人、指導者・支援者等 9 人）			
カリキュラム案活用	カリキュラム案を利用して、教えるために知っておかなければならない文法や、やり取り例を理解した。また、教材例集を利用して、写真やイラストの使い方を学んだ。さらに、指導力評価を利用して、自己評価のやり方を学ぶとともに、実践の中で使用できるように使い方を事前に知る機会とした。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 （ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	1								33

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名
1	平成30年12月5日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	23	地域の日本語、ボランティアの役割を考える	多文化共生社会と日本、地域住民の役割、学習に効果的な指導(TPR、VT法)	関口 明子	川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
2	平成30年12月12日(水) 9:30～11:30	2	しんじゆく多文化共生プラザ 多目的スペース	21	日本語の音と文字を見直す 1	日本語の文字の特徴、ひらがな・カタカナの表記、日本語の漢字、ローマ字表記	金 早苗	加藤 玲奈(補助者)
3	平成30年12月19日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	20	日本語の音と文字を見直す 2	日本語の音数、母音と子音、有声音と無声音、拍と音節、日本語のリズム、アクセント、プロソディ活動	宮下 しのぶ	加藤 玲奈(補助者)
4	平成31年1月9日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	22	名詞を考える 1	日本語の名詞の種類、特徴(普通名詞、固有名詞、数詞、代名詞、形式名詞)	内田 雅子	加藤 玲奈(補助者)
5	平成31年1月16日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	21	名詞を考える 2	名詞文とは、名詞文を使う場面を考える(自己紹介・電話番号・時間・買い物・趣味)	金 早苗	加藤 玲奈(補助者)
6	平成31年1月30日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	18	動詞を考える 1	動詞とは、動詞と助詞、活用(グループ分け)	宮下 しのぶ	小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
7	平成31年2月6日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	19	動詞を考える 2	動詞の活用を使った文型(ます形、ない形、辞書形)	赤木 朋子	小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
8	平成31年2月13日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	20	動詞を考える 3	動詞の活用を使った文型(て形、た形)、普通体を使う文	赤木 朋子	赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
9	平成31年2月20日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	18	形容詞を考える 1	形容詞とは(い形容詞、な形容詞)、形容詞の形の変化、形容詞を使った文	内田 雅子	小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
10	平成31年2月27日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	19	形容詞を考える 2	生活場面での名詞、動詞、形容詞、前半10回分のまとめ	内田 雅子	赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
11	平成31年3月6日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	21	日本語クラス概要説明	外国籍住民概況、新宿区日本語教室概要、はじめてしゃべる日本語クラス概要、ボランティアに必要な意識	—	赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)
12	平成31年3月13日(水) 9:30～11:30	2	新宿コズミックセンター 3階 大会議室	20	ボランティア顔合わせ	ボランティア経験談、教室ビデオ鑑賞、次年度のトピック出し	—	赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成30年12月12日】日本語の音と文字を見直す 1

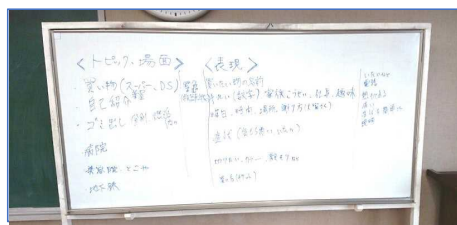
- ・実際に教室運営をしている「しんじゅく多文化共生プラザ」の多目的スペースで研修を実施した。受講生には、教室の案内に加え、同施設で行っている外国人相談窓口や他日本語教室についても紹介した。
- ・研修では、日本語の文字(ひらがな、カタカナ、漢字)を扱った。日本語は、一つの文の中でひらがな、カタカナ、漢字、ローマ字等、多くの文字を使うという特徴がある。



○取組事例②

【第12回 H31年3月14日】ボランティア顔合わせ

- ・既存ボランティアから今年度の活動を紹介した。その中では、教室で接した学習者や活動内容の決め方、使用した教材について話した。また、教室活動でうまくいった点や改善が必要な点についても触れ、講座受講生が来年度の運営に関わる動機づけを行った。更に、今年度の教室の様子を撮影した動画も流した。
- ・講座の後半では、これまでの講座内容を踏まえ、来年度の運営で取り上げるトピックを検討した。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・事業計画の時点では、全10回の講座を予定していたが、運営を進める中で講座を全12回実施することとし、内容も変更した。内容は、外部講師から日本語の構造や文法知識についての講義、事務局から実際の教室運営についての説明、そしてボランティアとの顔合わせとした。
- ・講座終了時にアンケートを実施し、受講生27人の内、20人から回答を得た。20人が日本語教育への理解を深め、18人が内容に満足していた。一方、ごく一部であるが、研修を受けたら「完璧な」日本語が「完璧に」教えられようになると誤解する受講者もあり、この点は留意する必要がある。

(3) 今後の改善点について

- ・講座の順番を見直す。研修の初回で事務局の意向や今後の運営方針について説明する機会を設ける。今回は外部講師の都合で、先に外部講師の回を設け、後に事務局の回を設けていた。
- ・講座の内容として、各国の特徴や、外国人の生の声を取り入れられるような工夫も考えられる。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称：「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア研修講座 ブラッシュアップ講座】

目的・目標	「はじめてしゃべる日本語クラス」実施後に、運営方法や作成教材を振り返ることで、運営ボランティアのブラッシュアップを図る。									
内容の詳細	「はじめてしゃべる日本語クラス」振り返り (1)作成教材の精査 (2)シラバスの見直し (3)次年度実施時の改善点の共有									
実施期間	平成30年12月18日～平成31年2月5日				授業時間・コマ数		1回 2時間 × 4回 = 8 時間 ※「事前研修」、「養成講座」を併せ 総時間30時間以上実施			
対象者	「はじめてしゃべる日本語クラス」運営ボランティア				参加者		総数 17 人 (受講者 13 人, 指導者・支援者等 4 人)			
カリキュラム案活用	カリキュラム案を利用して、教えるために知っておかなければならない文法や、やり取り例を理解した。また、教材例集を利用して、写真やイラストの使い方をつかんだ。さらに、指導力評価を利用して、自己評価のやり方を学ぶとともに、実践の中で使用できるように使い方を事前に知る機会とした。									
使用した教材・リソース										
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ ア	ペルー	フィリピン	日本
										17
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年12月18日 (火) 9:30～11:30	2	新宿コズミック センター 3 階 大会議室	12	クラス振り返り	ボランティアによる全体ワーク、グルー プワークの振り返り			川島 仁美 赤谷 英貴 小林 久夫 (いずれも補助者)	
2	平成31年1月8日(火) 9:30～11:30	2	新宿コズミック センター 3 階 大会議室	7	クラス振り返り 来年度に向けて	学習者への中間・期末アンケート結果を 基に振り返り、来年度に活かせる点を 検討			赤谷 英貴 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
3	平成31年1月29日(火) 9:30～11:30	2	新宿コズミック センター 3 階 大会議室	9	教材見直し	暫定版の教材を用い、目次、トピック 名、画像、内容の精査			赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	
4	平成31年2月5日(火) 9:30～11:30	2	新宿コズミック センター 3 階 大会議室	9	来年度の 運営方針	来年度の運営方針説明、来年度の個別 学習で取り上げる内容の精査			赤谷 英貴 小林 久夫 加藤 玲奈 (いずれも補助者)	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 平成31年1月29日】教材見直し

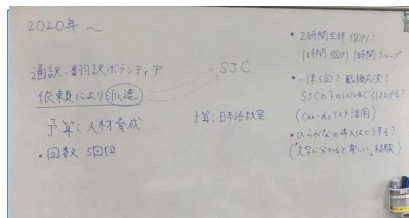
- ・実際の教室で各ボランティアが使用していた素材を1冊にまとめた教材(暫定版)を精査した。研修では、最初に教材全体に目を通し、次年度以降に活用していくことを踏まえ、今年度の教室で実施したグループワーク、全体ワークそれぞれの教材について検討を行った。
- ・グループワークで使用する教材は、学習者の生活に必要なトピックが先になるよう、トピックを並べる順番を検討した。また、関連性のあるトピックは近くにまとめることとした。
- ・全体ワークでは、研修時点でまとめきれていなかった実際に教室で実施した内容を振り返り、改めて教材に反映することとした。



○取組事例②

【第4回 平成31年2月5日】来年度の運営方針

- ・事務局から来年度以降の運営方針を説明した上で、来年度の運営で取り上げる項目について意見を出し合った。
- ・来年度の教室では、グループワーク、全体ワークに加え、1対1で学び合う個別ワークを取り上げることを説明した。また、このプログラムが終了する2020年度以降の方針についても見解を述べた。
- ・その上で、来年度の個別ワークで取り上げる項目について検討を行った。五十音表を用いた発音のワークや、基本的な自己紹介を行うワーク等の提案があった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・事業計画当初は、講師を招いた研修を予定していたが、このプログラムが2年目となり、内部で円滑な運営ができるようになったため、ボランティアと事務局のみで研修を行った。4回の研修を通じ、今年度の振り返り及び来年度に向けての意見交換を十分に行うことができた。
- ・研修終了時に実施したアンケートでは受講生13人のうち、8人から回答を得て、その中で9割が内容に満足し、全員が「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解を深めることができた。

(3) 今後の改善点について

- ・今後も教室終了後の講座の振り返りは、ボランティアと事務局で行うこととする。
- ・来年度の教室終了後の講座では、上記に加え、2020年度意向を見据えた個別ワークの強化につながるような内容を実施したい。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：はじめてしゃべる日本語クラス 活動例集】			
目的・目標	・かなや漢字など日本語の文字情報に不慣れな最初級者が目視で触れられるよう視覚素材から構成した教材を作成した。 ・支援者がすぐに使えて、アレンジしやすい、活動のヒントになるようなパートを作成した。 ・上記のうち、学習者には視覚素材のもののみをテキストとし、支援者はそれらを合わせたものを活動例集として使用した。 ・各回に「できること」を設定した。教室に来る楽しさに加え、来れば何かしらできることが増やせて、より便利に生活できるような工夫をした。		
内容の詳細	・「グループワーク例集」と「全体ワーク例集」とで構成される。 ・教室で取り上げる順序は自由である。 ・生活に有用と思われる内容だけでなく、新宿らしさを感じられたり、余暇活動を楽しむきっかけとなるような要素も取り入れた。また、これをきっかけに地域への参加がより進むような内容とした。 ・「支援する側」「支援される側」という関係ではなく、「お互いに知り合う」「ここでの時間を楽しく過ごす」ため、学習者の母語での発話やそのリピート、文化的要素のアウトプット、また、教室全体でアットホームな雰囲気を醸成するための全体ワークを盛り込んだ。		
実施期間	平成30年7月31日～平成30年12月11日	作成教材の 想定授業時間	1回2時間×40回＝80時間
対象者	最初級者	教材の頁数	79ページ (学習者使用分は視覚素材のみ52ページ)
カリキュラム案活用	「はじめて」の実施時期外での最初級者対応時(通年実施の「新宿区日本語教室(SJC)」)に活用できた。		
事業終了後の教材活用	各回で「できること」を明確にした。実施時期外での受け入れ時に活用した際に、更に「できること」の広がりが見られた。次年度の教材ブラッシュアップに反映し、最初級者が自身でCan-Do(いまできること)とTo-Do(いますべきこと)を把握できる教材を目指す。		
成果物のリンク先			

はじめてしゃべる日本語クラス

活動例集



その他	・学習者からもジェスチャーのアイデアをもってもらった。 ・学習者にジェスチャーの指示を出して貰ってもよい。
ワークの様子	

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

新宿区は、在住外国人比率が12.4%（平成30年1月1日現在）と高く、国籍は133ヶ国に上る。また、流動的な外国人が多く行きかう特色を持っている。教室ではボランティアによるグループ学習を実施しているが、最初級者の支援に集中してしまうことで他の学習者への対応が希薄になったり、グループ学習であることから最初級者が学習に付いていけなくなってしまう等、最初級者への教え方や対応に苦慮している状況も見られる。このような状況を鑑み、最初級者対象の教室を開設し、学習しやすい環境を整えるとともに、最初級者が日本語を学ぶために必要な日本語教室運営のノウハウや、ボランティアのスキル、テキストを構築する。

また、公的な日本語教室・ボランティアによる日本語教室が新宿区内各地で開催されているが、日本語教室の互いの連携は希薄であり、支援方法についても把握できていない現状にある。外国人が、日本語を学ぶきっかけづくりとして平成29年度に申請した「はじめてしゃべる日本語クラス」事業の基盤を盤石なものにするとともに、新宿区全体の地域日本語教室の連携を密にし、日本語教育事業の安定的な実施に繋げることを目的とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

1. 前年度と同様、朝教室と夜教室の2種類を実施し、受講者数が前年度比で19名増となった。夜教室の会場を多文化共生の拠点である「しんじゅく多文化共生プラザ」に変更したことや、チラシを直接配付するなど周知の強化に努めたことが成果として現れたと考えられる。また、アンケートを実施した結果、回答者のうち80%以上の受講者から、教室に参加する前より日本語を使うようになったという回答を得た。自由意見においても、日本人と話ができるようになったという意見、ボランティアやクラスメイトとの交流が楽しかったという感想、もっと話す機会を得たいという意欲の向上を確認することができた。

2. ボランティアの事前研修では、回を重ねるごとに既存の新宿区日本語教室との相違点や最初級者に対する具体的な支援の進め方について共有することができた。ブラッシュアップ講座における振り返りでは、回答者の全員が「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったという認識であった。また、次年度を見据えたボランティア養成講座では、27名の参加者を獲得することができ、周知の広がりを確認することができた。

3. テキスト作成においては、昨年度よりさらに受講者とボランティア、および受講者同士の交流を重視するため、「全体ワーク」の方法や活動の様子を掲載した。また、「グループワーク」では、挨拶から日本の行事まで11のテーマを選択し、会話を中心とした教室運営ができるよう工夫した。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

標準的なカリキュラム案のイラストや写真等を参考にし、会話を中心とした教室運営に努め、受講者に生活者として必要となる語彙を数多く伝えることができた。また、ボランティアが具体的な指導方法の理解を深めることに役立った。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

1. 新宿区地域振興部多文化共生推進課・・・教室の進め方や既存の日本語教室との関係性に関する確認、今後の方針についての協議を行った。

2. 新宿区日本語教室・・・はじめてしゃべる日本語クラスの修了者の中から、新たに新宿区日本語教室に参加し継続的に学習する受講者が現れた。

3. 区内ボランティアによる日本語教室・・・ネットワーク会議を開催し情報を共有したことにより、今後の継続的な学習機会の情報提供に役立てることができた。

4. 国際日本語普及協会・・・教室運営の方針決定、ボランティア養成講座等において連携した。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

周知・広報においては、当財団広報紙やホームページ、区立施設へのチラシ設置という従来の方法に加え、大使館や外国籍の方々が営業する飲食店、その他任意団体に直接出向きチラシを配付するなどの取り組みを行った。また、「新宿区多文化共生まちづくり会議」にて、はじめてしゃべる日本語クラスを含めた日本語教育事業を紹介し、あらためて日本語の最初級者に対する「生活者としての日本語教育」の重要性を確認した。

今後は、はじめてしゃべる日本語クラスの運営でボランティアが習得したスキルを、既存の新宿区日本語教室においても活かしてもらえるよう指導・支援を行っていく。

(6) 改善点、今後の課題について

以下の5点を今後の課題に挙げたい。

1. 日本語の最初級者のさらなる参加促進。
2. 教室運営で得た成果を新宿区日本語教室で活かす取り組み。
3. 日本語の最初級者に対する「個別学習」の導入方法に関する検討。
4. 既存のテキストのブラッシュアップ（外出活動や観光、災害対応等のトピックを追加するなど、内容を充実させる）。
5. 最初級者を指導することができるボランティアのさらなる養成。

(7) その他参考資料